ミニシンポジウム記録

微量元素・同位体を指標とした沿岸域の
物質動態研究の現状と展望

石川智士^{1*} (地球研),
林崎健一² (北里大海洋),
吉川 尚³ (東海大海洋),
富永 修⁴ (福井県大生物資源),
中野孝教¹ (地球研)

Current and future interdisciplinary collaborative
researches on coastal ecosystems based on
microelements and stable-isotope analyses

SATOSHI ISHIKAWA,^{1*} KEN-ICHI HAYASHIZAKI,²
TAKASHI YOSHIKAWA,³ OSAMU TOMINAGA⁴
AND TAKANORI NAKANO¹

¹Research Institute for Humanity and Nature, Kamigamo-
motoyama, Kita-ku, Kyoto, 603-8047, ²School of Marine
Biosciences, Kitasato University, Sagami-hara, Kanagawa
252-0373, ³School of Marine Science and Technology,
Tokai University, Shimizu, Shizuoka, 424-8610, ⁴Faculty
of Marine Bioscience, Fukui Prefectural University, Oba-
ma, Fukui, 917-0003, Japan

はじめに

沿岸域の生物生産は、海域および地表水や地下水を介して陸域からもたらされる各種物質によって駆動される。それらに含まれている微量元素の主な起源は流域の地質や人間活動にあり、その組成や同位体比には地域生態系の特徴が色濃く現れる。近年、微量元素や同位体分析技術は急速に発展してきており、地質学や水文学の分野における物質動態研究、人類学や考古学の分野における年代測定や気候変動研究および農学や生態学の分野における保全研究など、様々な研究が進められてきている。本ミニシンポジウムでは、国内外での沿岸域を対象

とした微量元素・同位体分析を活用した物質動態研究や生態研究の最新の情報をご講演いただき、微量元素の地域的特徴を環境指標とした、水圏生態系研究の今後の展開について情報交換がなされた。また、水産分野における微量元素・同位体分析を用いた学際的研究のあり方と今後について活発な質疑・討論がなされた。

〈プログラム〉

企画責任者：石川智士 (地球研)・林崎健一 (北里大海洋)・吉川 尚 (東海大海洋)・富永 修 (福井県大生物資源)・中野孝教 (地球研)

9 : 00 ~ 9 : 10 開会の挨拶 石川智士 (地球研)

座長 吉川 尚 (東海大海洋)

9 : 10 ~ 9 : 35 1. タイ・ラヨーン沿岸における定置網漁獲物の栄養段階

今 孝悦 (筑波大下田)

9 : 35 ~ 10 : 00 2. タイ南部・バンドン湾の貝類養殖域における食物網構造

岡本侑樹 (地球研)

10 : 00 ~ 10 : 25 3. ラドンとトリシウムの同位体を利用した沿岸生態系への地下水インパクト評価

谷口真人 (地球研)

10 : 25 ~ 10 : 35 休 憩

座長 石川智士 (地球研)

10 : 35 ~ 11 : 00 4. 安定同位体比分析で水産資源の栄養起源を探る

富永 修 (福井県大生物資源)

11 : 00 ~ 11 : 30 5. 微量元素の安定同位体技術を用いた沿岸域の物質動態研究

中野孝教 (地球研)

座長 富永 修 (福井県大生物資源)

11 : 30 ~ 11 : 50 総合討論

11 : 50 ~ 12 : 00 閉会の挨拶 林崎健一 (北里大海洋)